

迎春



おかげさま

二〇二四

変わらないために 変えるということ

菅原雅重

二十年に一度行われる伊勢の式年遷宮。次回、『第六十三回式年遷宮』は十年後の二〇三三年に執り行われます。

ちょうど十年前、私は宮大工として前回の遷宮に関わらせて頂きました。約六年間過ごした伊勢では刃物の跡を残さず、見えない部分まで仕上げる究極とも言える精度を求める技術が必要とされました。また、木の収縮、荷重などを考慮して木を組み上げる為の長い年月を見る目も養われました。

それから毎朝、潔斎、朝拝をしてから仕事に取り掛かる姿勢など、見えない「心がまえ」についても強く意識させられたと思っています。

宮大工としての圧倒的な「技」、長い年月を見る「目」、これらをつなぐのが「心がまえ」なのだと理解を深めた時期でした。

そして、七年前おかげさまという組織を立ち上げ、自ら仕事を依頼されチームを率いる立場となり、今もう一つ大切なものを感じています。

謙虚な心を持ち仕事と対峙することに加えて、自ら思考する「思う」ことが大切である。それが心がまえの根幹にあり、そして、その思いの先は常に変化する地域社会に向いていなければならぬと思っています。

「技」・「目」・「心」。これらは全て社会への「思い」に包括される形でのみ存在していることを私たちは忘れてしまいがちです。

我々建築に関わる人間、特に伝統的な仕事に携わる者は型に囚われてしまいます。地域・社会にとって必要であれば、変えることは、変わらないことにつながって行くと信じています。「技」・「目」・「心」は、その「思い」の実現の為にこそ、磨き使われるべきものではないでしょうか。



お寺を次世代へとつなぐ

浄蓮寺〈清水町〉屋根修復工事完了

昨年の春から進めていた本堂の改修工事が完了しました。大きな入母屋造りの屋根を寄棟造りの屋根へ、そっくりと形を変え大掛かりな工事となりました。着工前に行った現地調査の結果、雪の重み、経年の劣化等の影響を受けた屋根の四隅は場所によって最大で20センチ程高さが違っており、屋根内部の構造材も高さはもちろん、材のねじれ等の大きな変形も見られました。現場では新しい隅木

を取り付けるにあたって実測と調整をいく度も繰り返し、地道な作業の日々。それでも連日の猛暑の中、沢山の職人さんの協力のもと、無事に工事を完了することができました。完成の報告会では、皆さんから前よりも良くなったね、（本堂に）入りやすくなった等のお声をいただき、とても安心しました。「浄蓮寺の大工さんは本当に一生懸命やってくれている。遠くから見てもそれが伝わってくる、と地元の人

が言っていた」という言葉までかけていただきました。これは現場にいる全員が工事の意図を理解し、自ら考え全力で取り組んでくれた結果だと思っています。「今」悪い部分をただ単に修繕するのではなく、「孫のため」にしっかりとカタチで受け渡す。計画を考える際、この思いを第一にし、屋根面積を小さくし、装飾を減らし、構造と材は長く持つものを選びました。屋根の形状を大きく変える。勇気を持ってその決断をしてください。ご住職、役員の方々、檀家の皆さまには心より感謝いたしております。

上 改修前の本堂。屋根は入母屋造り。

下 改修後は寄棟造りに。



インタビュー

改修工事について、浄蓮寺三代目住職 山名万里さんと浄蓮寺責任役員 橋本晃明さんにお話を伺いました。

工事の経緯について

山名 もう五、六年ほど前になりますかね。本堂の屋根の傷みが気になり始めていたのは。それから様子を見ていたのですが、近くのお寺で最近屋根を直されているところもあり、うちも手遅れになる前にやっておかなければいけないと考えておりました。(おかげさまは) 昨年インターネットで調べていた際に知りました。でもまさか帯広に宮大工さんがいるとは思っていませんでした。それで連絡をすると、すぐに来てくださった。物腰の柔らかい対応には驚きました。現場の調査から見積もりも丁寧でした。

増し張りに比べ予算が膨らんだことについては
橋本 屋根の形を変えると聞いた時は耳を疑いましたが、日本の高齢化の問題でちょうどダウンサイジングに行政が動いている中で、タイミングがぴったり合っていました。今大変だからと問題を先送りしてしまい、後ろの世代に負担をかけてしまうのはどうなのかと思いました。
山名 お金に関してはその必要材料と経費が明朗で追加の費用が一切からなかったのですが…。

たのはありがたかったです。
—— 周囲からの評判は

山名 可愛らしくなったね、敷居が低くなったねと言ってくださいます。前の方が良かったという話は聞いておりません。

橋本 単純に綺麗になったことが嬉しいです。ここは地域のたくさんの方々が集う場所なので、その大事な場所を自分たちの代で何かできた。これからも関わってください。方には、自分たちのお寺のだと思ってくださいとありがたいですね。

山名 工事を依頼する前に檀家さんへの説明会があり、そこで『次の世代に負担をか



工事期間中には檀家さんや帯広高等技術専門学院建築技術科の学生さんらを招いて見学会も行いました。

右 山名万里さん 浄蓮寺三代目住職
左 橋本晃明さん 浄蓮寺責任役員



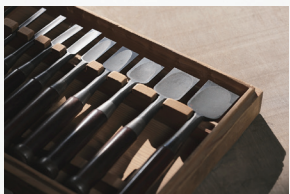
道具礼賛

3

鑿金

のみ

鑿は主に木材に穴を掘るために用いる、刃物の中でも単純な作りをした手道具の一つです。ゆえに使い勝手が良く、玄翁とセットで大工の腰袋には収められています。大工の見習いとして研ぎ物をする際、はじめに渡されるものが鑿です。先輩からポロボロの古い鑿を手渡され、刃物として使える状態に鑿を研ぎます。木材に仕口や継手の加工を施す場合、鑿の手



玄翁で叩いて使う叩き鑿、柄の長い付き鑿など、鑿は用途によって様々な形状と大きさがあります。





（つくるもの） 神代楡のトリユフケース

前号、パリで活躍する佐藤伸一シェフより依頼を受けて製作したトレーとトレースタンドを紹介しました。佐藤シェフからは世界各地から取り寄せた店内の調度品とも良い形で調和し、とても使い易いとお言葉を頂きました。今回引き続き製作したトリユフケースは、調理する前にトリユフをお客さまにお見せするための専用ケースです。「宝石箱のように」との要望を受け、日本に古くからある宝物を納める寄木造りの八角箱からデザインをイメージして作りしました。材料はトレーに使用した物と同じく北海道産の神代楡を使用。木肌に品があり、丈夫で軽く、特有の匂いがないことから中に入れるトリユフの香りを妨げることもありせん。神代楡、トリユフ共に長期間地中に眠っている事から何かつながらを感じています。



胴部分は格子組みで「田口」と読めるように。

田口さんのテーブルセット

幕別町で酪農業を営む田口音産さまより依頼を受けて製作したテーブルセットです。神社の境内で倒木の危険があった楢の大木を伐採したものの、近くに丸太を製材できるところがなく、どうにかできないだろうかと相談に來られました。おかげさまで樹齢百五十年から二百年の楢の丸太を三本受け取り、製材からデザイン、加工を一貫して行いました。工程の中で大型の機械も使いましたが、最後は職人が手鉋で仕上げています。材料を購入して作る事に比べると、本当に手間がかかる事が多くなりますが、依頼された方と、ものをつくる過程を一緒に歩み完成させる行為は、ただ製品を購入するのとは異なる価値を生み出す事になっていると実感します。



天板の反りを最小限に食い止めるため、吸い付き棧という伝統的な工法を用いました。



おかげさまで
働く人々

浦佳槻 見習い

5

必要なものは何でも自分で考えて作ってしまう祖父を見て育ち、幼心に物づくりの面白さを刷り込まれていたという浦佳槻さん。浦さんは地元帯広の高校で建築を学び、卒業後おかげさまに入社した。「建物を含めた物づくりの技術をトータルで全て学ぶことがで

えることが山のようにあるのだという。「半年働いて現場の動きがやっと少しづつ分かるようになってきました。自分の仕込んだ玄翁と鑿で木材を加工し、継手と継手がぴったり合った時、ものすごい達成感がありました」。

当面の目標は三つ年上の先輩に追いつくこと。「その先は遠いのですが、親方と同じレベルに行きたいです」。浦さんの口元がぎゅっと引き締まりました。



おかげさま工房二階にある原寸場（原寸で図面を描くための場所）で撮影しました。



あとがき

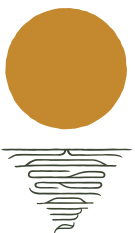
自然界には、環境の変化に対応できなかったり、天敵がない特殊な環境下で世代交代を幾度も繰り返すことで、身体の機能が退化するなど、様々な要因で絶滅していった種が多くあります。これは我々のような伝統的な技術を受け継ぐ職人と決して無縁ではないと考えています。

日本という島国で、長い間守り伝えられてきた伝統技術。我々職人はその技術を身につける為に日々精進しています。その伝統を今一度、自ら見

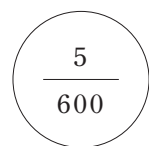
つめ直していく事はとても困難な事です。しかし、その行為がなくては、環境・社会の変化に対して真に求められる技術を未来へ伝えていくことはできません。守り、思い、変化し、実行する。それが伝統を受け継ぐ者、全員に課せられた大切な役割の一つだと思います。



新設した中札内茶神社の社殿。



「おかげさま」は多様な由来を持ち、「陰と陽」つまり「光があるところには影ができる」という意味合いもあります。輝く朝日や夕日、月光の下では影ができるように、わたしたちは人々の集まる「場」の裏方として、つくり、守り、支えてゆくという大切な使命をこのしるしに込めています。



株式会社おかげさま
帯広市東三条南八丁目十六番地一
電話：〇一五五―六七―五八六一
FAX：〇一五五―六七―五八六二
<https://okage-sama.com/>